

(一社) 美しい伊豆創造センター 令和6年度事業報告

1 会議等の開催

(1) 総会

日 付	内 容 等
令和6年 6月25日(火)	第8回(一社) 美しい伊豆創造センター定時社員総会(修善寺総合会館) 議案第1号 令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター事業報告 及び計算書類の承認について 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事・監事の改選に ついて 報告第1号 令和6年度(一社) 美しい伊豆創造センター事業計画 及び収支予算について

(2) 理事会

日 付	内 容 等
令和6年 6月7日(金)	(一社) 美しい伊豆創造センター理事会(修善寺総合会館) 議案第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター入会申込書の許可に ついて 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター顧問の選任について 議案第3号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事・監事の推薦に ついて 議案第4号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事・監事候補につ いて 議案第5号 令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター事業報告 (案)及び計算書類の承認について 議案第6号 (一社) 美しい伊豆創造センター定時社員総会の開催 について 報告第1号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第92条 に係る取引の報告について 報告第2号 令和6年度(一社) 美しい伊豆創造センター収支予算 の変更について 報告第3号 伊豆半島満足度調査について 報告第4号 観光復興義援金について 報告第5号 ユネスコ世界ジオパーク再認定にかかる今後の対応 について
6月25日(火)	(一社) 美しい伊豆創造センター臨時理事会(修善寺総合会館) 議案第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター代表理事の選定につ いて 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター副会長及び業務執行 理事の選定について

7 月 30 日（火）	（一社）美しい伊豆創造センター臨時理事会（修善寺総合会館 1 階多目的室(WEB 開催)） 議案第 1 号 （一社）美しい伊豆創造センター代表理事の選定について 議案第 2 号 （一社）美しい伊豆創造センター副会長及び業務執行理事の選定について
12 月 24 日（火）	（一社）美しい伊豆創造センター理事会（中伊豆ワイナリー T.S シャトー） 議案第 1 号 （一社）美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について 議案第 2 号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 84 条に係る取引の変更について 議案第 3 号 （一社）美しい伊豆創造センター事務処理規程の改正について 議案第 4 号 （一社）美しい伊豆創造センター伊豆半島ジオパークサポーター設置規程の制定について 議案第 5 号 （一社）美しい伊豆創造センター委員会規程の改正について 報告第 1 号 （一社）美しい伊豆創造センター企画運営委員会委員長、副委員長の選出について 報告第 2 号 （一社）美しい伊豆創造センター観光・地域振興委員会委員長、副委員長の選出について 報告第 3 号 （一社）美しい伊豆創造センタージオパーク委員会委員長、副委員長の選出について 報告第 4 号 令和 6 年度（一社）美しい伊豆創造センター事業経過報告について 報告第 5 号 令和 6 年度（一社）美しい伊豆創造センター収支予算の変更について 報告第 6 号 台湾観光復興義援金について 協議第 1 号 令和 7 年度（一社）美しい伊豆創造センター事業計画（案）について 令和 7 年度（一社）美しい伊豆創造センター市町負担金（案）について 令和 7 年度（一社）美しい伊豆創造センター収支予算（案）について 協議第 2 号 インドネシア・チレトゥーユネスコ世界ジオパークとの連携協定更新について
令和 7 年 1 月 31 日（金）	（一社）美しい伊豆創造センター 臨時理事会（書面開催） 議案第 1 号 （一社）美しい伊豆創造センター顧問の推薦について 議案第 2 号 （一社）美しい伊豆創造センター臨時理事会の開催について
3 月 27 日（木）	（一社）美しい伊豆創造センター理事会（修善寺総合会館） 議案第 1 号 （一社）美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について

	議案第2号 令和7年度(一社)美しい伊豆創造センター事業計画(案)、市町負担金(案)、収支予算(案)について
	議案第3号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引の承認について
	報告第1号 観光に関する住民満足度調査について
	報告第2号 伊豆半島を取り巻く観光の動向について
	報告第3号 事務局長の任命について

(3) 委員会

日 付	内 容 等
令和6年 5月31日(金)	(一社) 美しい伊豆創造センター企画運営委員会(修善寺総合会館) 議案第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター入会申込書の許否について 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター顧問の選任について 議案第3号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事・監事の推薦について 議案第4号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事・監事候補について 議案第5号 令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター事業報告(案)及び計算書類の承認について 議案第6号 (一社) 美しい伊豆創造センター定時社員総会の開催について 報告第1号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第92条に係る取引の報告について 報告第2号 令和6年度(一社)美しい伊豆創造センター収支予算の変更について 報告第3号 伊豆半島満足度調査について 報告第4号 観光復興義援金について 報告第5号 ユネスコ世界ジオパーク再認定にかかる今後の対応について
11月13日(水)	(一社) 美しい伊豆創造センター第1回ジオパーク委員会(修善寺総合会館) 協議事項 ①正副委員長の選任について 報告事項 ①ジオパーク委員会設置要綱の改正について ②令和6年度 事業計画及び実施状況について ③ユネスコ世界ジオパーク国内事前確認について
12月2日(月)	第1回(一社) 美しい伊豆創造センター観光・地域振興委員会(長岡中央公民館(あやめ会館)) 報告第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター 観光・地域振興委員会委員長、副委員長の選出について 報告第2号 令和6年度(一社)美しい伊豆創造センター 事業経過報告について 報告第3号 令和6年度(一社)美しい伊豆創造センター 収支予

	算の変更について 協議第1号 令和7年度（一社）美しい伊豆創造センター 事業計画（案）及び収支予算（案）について
12月3日（火）	（一社）美しい伊豆創造センター企画運営委員会（修善寺総合会館） 議案第1号 （一社）美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について 議案第2号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引の変更について 議案第3号 （一社）美しい伊豆創造センター事務処理規定の改正について 議案第4号 （一社）美しい伊豆創造センター伊豆半島ジオパークサポーター設置規程（案）の制定について 議案第5号 （一社）美しい伊豆創造センター委員会規程の改正について 報告第1号 （一社）美しい伊豆創造センター企画運営委員会委員長、副委員長の選出について 報告第2号 （一社）美しい伊豆創造センター観光・地域振興委員会委員長、副委員長の選出について 報告第3号 （一社）美しい伊豆創造センタージオパーク委員会委員長、副委員長の選出について 報告第4号 令和6年度（一社）美しい伊豆創造センター事業経過報告について 報告第5号 令和6年度（一社）美しい伊豆創造センター収支予算の変更について 報告第6号 台湾観光復興義援金について 協議第1号 令和7年度（一社）美しい伊豆創造センター事業計画（案）について 令和7年度（一社）美しい伊豆創造センター市町負担金（案）について 令和7年度（一社）美しい伊豆創造センター収支予算（案）について 協議第2号 インドネシア・チレトゥーユネスコ世界ジオパークとの連携協定更新
令和7年 1月28日（火）	（一社）美しい伊豆創造センター第2回ジオパーク委員会（修善寺総合会館） 協議事項 令和7年度 事業計画及び予算について ワーキンググループの設置について 報告事項 ログイニング大会の開催について
3月12日（水）	第2回（一社）美しい伊豆創造センター観光・地域振興委員会（修善寺総合会館） 報告第1号 令和6年度（一社）美しい伊豆創造センター 事業経過報告について 協議第1号 令和7年度（一社）美しい伊豆創造センター 収支予算（案）について

	協議第2号 令和7年度（一社）美しい伊豆創造センター 事業計画（案）について
3月13日（木）	（一社）美しい伊豆創造センター第3回ジオパーク委員会（修善寺総合会館） 協議事項 ①令和7年度 事業計画及び予算について ②ジオサイトの廃止について 報告事項 ①令和6年度 事業実施状況報告について ②2025年（令和6年度）ロゲイニング大会実施報告について
3月19日（水）	（一社）美しい伊豆創造センター企画運営委員会（修善寺総合会館） 議案第1号 （一社）美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について 議案第2号 令和7年度（一社）美しい伊豆創造センター事業計画（案）、市町負担金（案）、収支予算（案）について 議案第3号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引の承認について 報告第1号 観光に関する住民満足度調査について 報告第2号 伊豆半島を取り巻く観光の動向について

（4） その他

日 付	内 容 等
令和6年 4月23日（火）	第1回インバウンド事業に係る担当者会議（オンライン） ①美伊豆のインバウンド事業の取組みについて ②各市町のインバウンドの取組みについて
5月27日（月）	第1回大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議並びに観光・地域振興委員会実務担当者会議（修善寺総合会館） 報告事項 静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議 ①収支予算（案）について ②今後の事業・スケジュール（予定）について
5月27日（月）	第2回インバウンド事業に係る担当者会議（修善寺総合会館） 報告事項 （一社）美しい伊豆創造センターのインバウンド事業（案）について
9月10日（火）	一般社団法人 美しい伊豆創造センター賀茂地域商工連携部会（事務局長会議）（静岡県下田総合庁舎別館 賀茂キャンパス） 議事 ①地域ブランド（認定）事業の状況について ②ビジネスマッチング、事業者支援及び人材育成等の状況について ③その他
9月18日（水）	第2回大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議並びに観光・地域振興委員会実務担当者会議（修善寺総合会館） 報告事項(1)静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議 ① 令和6年度事業（4月～8月実施）実績について ② 今後の事業・スケジュール（予定）について

	(2)美しい伊豆創造センター 令和6年度事業計画（観光関連事業）について
10月3日（木）	第3回インバウンド事業に係る担当者会議(オンライン) ①令和7年度インバウンド事業計画（案）について ②海外研修（台湾）参加者の報告について ③その他
11月27日（水）	第3回大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議並びに観光・地域振興委員会実務担当者会議（修善寺総合会館） 報告事項(1)静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議 令和6年度事業実績及び今後の事業・スケジュールについて (2)美しい伊豆創造センター 令和6年度主要事業報告（観光関連事業）と今後の予定について
令和7年 2月26日（水）	第4回大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議並びに観光・地域振興委員会実務担当者会議（修善寺総合会館） 報告事項(1)静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議 ①令和6年度事業実績および収支状況について ②収入支出決算の審査について (2)美しい伊豆創造センター 令和6年度観光関連事業の進ちょくについて

(1) ジオリゾート伊豆ブランディング推進事業

ア ブランドスローガン推進事業 イ 観光防災事業

(総務企画部)

1 事業の目的

事業の目的	ア 当センターを認知・理解してもらうため、令和4年度に策定した組織の根幹となる基本理念とビジョン及びブランドスローガン「ジオの恵み 住む人来る人に」の周知を行う。 イ 発生が想定される「南海トラフ大地震」や「台風」などの災害に備えるため、構成市町や県の方針を踏まえながら、地域住民と共に観光事業関連事業者に対し減災、防災への取組を意識付けする。また、観光客が安心して来訪できる体制を検討する。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
ア 推進事業	・NPO 法人の概要や経営理念などが記載されている3ヶ年活動計画の増刷 ・新規会員獲得に繋げるため、地域の事業者等へ周知の実施
イ 防災事業	防災シンポジウムの開催 ○7/13 南伊豆町 湯けむりホール ・テーマ「伊豆半島沖地震から50年」 ・内容：基調講演・パネルディスカッション 参加者150名 ○1/25 伊豆の国市 菰山時代劇場大ホール ・テーマ「東日本大震災の記録」―後世に残し伝えるために― ・内容：講演・伊豆広域防災計画の骨子説明・トークセッション 参加者270名

3 評価と改善

評 価	・会議や来賓来所時に当センターの概要等の説明に活用した。説明をするのには分かりやすい資料である。 ・防災シンポジウムの開催により、経験から学び取るものが多く、地域のまとまりや事前準備の必要性を学ぶよい機会となった。
改 善	・令和7年度に新活動計画を策定するが、より分かりやすい資料の作成に努める。 ・今後発生が予想される「南海トラフ大地震」に備え、観光地としての準備等を伊豆半島広域防災協議会と確認する。

(1) ジオリゾート伊豆ブランディング推進事業

ウ DMO 連携等推進事業

(総務企画部)

1 事業の目的

事業の目的	エリアの地域振興に繋げるため、観光庁主催の DMO 経営研修会に参加し効果的な運営方法を学ぶ。さらに地域連携 DMO として観光人材の育成や海外団体との交流を推進し、組織の地域的役割を果たす。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
① DMO 更新手続き	・ 6/25 更新申請書提出 (3 年毎更新) ・ 8/28 登録完了通知受領 ・ 10/30 現状報告提出 (毎年度)
② 研修会	・ 9/6 WEB 研修「観光地域づくり法人による観光地経営研究」
③ 観光人材育成のための取組の推進	・ 4/24 テーマ「ユネスコ世界ジオパークとは」 講師：辻修次・遠藤大介研究員 対象：伊東市自然歴史案内人養成講座 ・ 9/10 テーマ「伊豆半島のインバウンド戦略」 講師：林田充常務 対象：金沢大学融合学域先導学類 ・ 10/9・12/4 テーマ「伊豆観光文化論」 講師：林田充常務・佐々木恵子研究員 対象 日大国際関係学部
④ 台湾好客民宿協會歓迎式典	・ 11/26 場所 伊東市サザンクロスリゾート 対象 台湾好客民宿協會関係者 9 名

3 評価と改善

評 価	・ DMO の更新を計画通りに進め更新が完了した。 ・ 域内団体への人材育成に貢献できた ・ 台湾観光団体への対応がスムーズに図れ、親交を深めることができた
改 善	・ 観光庁の登録 DMO への方針変更にともない、7 年度に新たな対応が予想される。

4 DMOとしてのKPIの設定について

(1) 令和5年度のDMOの目標達成度評価

実績・目標・対比 K P I 項目	令和5年度 (2023年度) 実績	目 標 (KPI)	目標比	前年度実績 (令和4年度)	前年度比
①旅行消費額	306,060百万	249,339百万	122.7%	264,342百万	115.8%
②延べ宿泊者数	10,218千人	9,505千人	107.5%	9,614千人	106.8%
③来訪者満足度	99.1%	98.0%	+1.1%	99.3%	-0.2%
④リピーター率	77.0%	67.0%	+10.0%	73.2%	+0.8%
⑤W e b サイト	25,693PV/月	100,000PV/月	25.7%	16,206 PV/月	158.5%
⑥観光交流客数	39,003千人	37,460千人	104.1%	36,931千人	105.6%

①旅行消費額は県外日帰り客単価を除き、1割以上の増となった。県外宿泊者の一人当たり消費支出額は前年度と比較15%増。単価

②コロナ5類移行に伴い、前年度比6.8%の増加。(コロナ前の令和元年度比▲4.9%)

※元年度 延べ宿泊者数 10,744千人

③「大変満足」「ほぼ満足」は前年度比0.2%減。だが「大変満足」は18.2%増。「旅行全体の満足度」は0.17ポイント、「観光情報の収集しやすさ」は0.09ポイント上がったが、「旅行中の移動」はやや不満が1.8%増となった。

④複数回来訪者割合の増に伴い、全体のリピーター率も増。

⑤アクセス数は、前年度比58.5%の増。SNSでの情報発信内容の充実に伴う。

⑥令和4年度比5.6%の増加。(コロナ前の令和元年度43,859千人 ▲11.1%)

(2) 令和6年度(2024年度)～令和8年度(2026年度)のKPI設定について

目標達成度評価を踏まえ、令和8年度(2026年度)以降のDMOとしてのKPI設定を行った。

年度 K P I	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度
旅行消費額	284,356百万	320,211百万	336,786百万
延べ宿泊者数	10,715千人	11,925千人	10,000千人
来訪者満足度	98.0%	98.0%	98.5%
リピーター率	67.0%	67.0%	73.5%
W e b サイト	100,000PV/月	100,000PV/月	100,000PV/月
観光交流客数	42,258千人	47,056千人	47,000千人
住民満足度① (観光客の受け入れに前向きである住民の割合)	66%	67%	70%
住民満足度② (住む地域に対して誇りや愛着を持っている住民の割合)	88%	89%	90%

・令和8年度のKPIは次期中期計画策定に伴い修正予定。

(1) ジオリゾート伊豆ブランディング推進事業

エ 観光に関する住民満足度調査

(総務企画部)

1 事業の目的

事業の目的	伊豆地域への来訪者に対し、生活者がどのような思いを持っているのかを意識調査し、生活者の満足度向上に貢献する取り組みの基礎資料とする。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
調査・分析	調査 県が実施した令和4年度県政インターネットモニターアンケートの一部を参考に、本年度は「ジオパーク関連質問」と「外国人受け入れ」に関する設問を追記した ・方法：Web や紙媒体でアンケート調査 有効回答 3,786 件 ・対象：7市6町住民 18歳以上 分析 ・「来てほしい」の合計が85.6%となり、静岡県全体の数値(29%)と比べると、約3倍となっている ・地域の誇り・愛着は「自然」が圧倒的に高く、ジオパークの認知度も地域差はでているが高いものとなっている ・外国人観光客の受入は74.8%という肯定的な回答が出ているが、前述の観光客の受入れ比率の数値(85.6%)と比べると低くなっている。 ・外国人観光客の否定的な回答は17.1%と、観光客全体の受入れ否定的比率の数値(4.6%)と比べると高くなっている。調査の中でマナー違反等が挙げられている。

3 評価と改善

評 価	・伊豆半島と静岡県全体の数値を比べると、観光客に対して圧倒的に好意的である結果が出ている。しかしながら訪日外国人の受入れに関しては、否定的な意見も出ている。 ・自然や景観に誇りや愛着を感じている住民が多く、ジオパークへの認知度も高かった。
改 善	・外国人観光客に対しての受入れが否定的なのは、風評によるものか、実際に不快を感じてのものなのか、掘り下げができなかった。令和7年度の調査では、調査項目を追記し検証を行う。

(1) ジオリゾート伊豆ブランディング推進事業

オ 産学連携事業

(総務企画部)

1 事業の目的

事業の目的	地域課題に対し、解決の提言や実践的な研究を行う「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」に課題を依頼し、調査研究報告を地域課題の解決や施策に反映させる。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
調査・研究	・令和5年度実施の「住民満足度調査」を地域課題とした ・4/15・7/9 大学との打合せ ・6月 日本大学国際関係学部宮城ゼミが研究課題として採択 ・10/4・10/25 日本大学国際関係学部宮城ゼミ学生による現地ヒアリング調査の実施 ・2/8 成果発表会（ふじのくに地域・大学フォーラム） 出席 ・3/4 事業成果報告書を受領

3 評価と改善

評 価	・学生による柔軟な視点により住民満足度の分析と施策の展開について深堀することができた。 ・連携継続により、地域課題の解決や施策に反映させることが期待される。
改 善	・継続して様々な課題の調査、分析を行っていく必要がある。 ・外国人受け入れについて調査・分析も加えたい。

(2) 観光総合開発事業

ア 観光事業者採用支援事業

(総務企画部)

1 事業の目的

事業の目的	宿泊事業者の人材不足対策として、県内外の学生を対象とした合同会社説明会及びホテル旅館の施設見学を実施し、学生の伊豆地域への就職意識を高めるとともに、人材確保につなげる。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
合同会社説明会	・令和7年3月卒業予定の学生を対象とした伊豆半島宿泊事業者の合同会社説明会を3/13 東京品川で開催した ・対象者：関東圏、静岡県内の大学生、短大生、専門学生 ・学校訪問による就職担当職員への説明：延べ3日、12校 ・出展事業者：8者 ・1出展事業者につき1ブースを設け、学生は自由にブースを周り出展事業者から説明を受ける形とした ・来場学生数46名（昨年度来場学生数16名）
ホテル旅館施設見学	・ホテル旅館の施設見学、先輩社員との交流、宿泊でのおもてなし体験及び施設周辺の観光体験 ・行程1泊2日、1日目は先輩従業員からの話を聴く時間や職場環境の見学、社員との交流とした ・2日目はその場所で働き暮らしていくイメージの形成を促すため周辺の観光、自由散策とした ・参加学生12名

3 評価と改善

評 価	・昨年度参加者の内、令和7年度内定者は8名であった。 ・合同説明会について、当初懸念点であった来場者数の確保について、複数の広告の活用により昨年度以上の実績を得ることが出来た。 ・全体を通して、実際に働いている方の意見や現地体験を通して、魅力を実感したという声を多くもらい、就職意識の向上に寄与できたと実感した。 ・従業員確保に是非結び付けてもらいたい
改 善	・売り手市場という現状を踏まえると、対面式の説明会、見学体験では参加者の確保に限界がある。オンライン形式への転換を検討する必要がある。 ・事前広報の手法検討が必要

(2) 観光総合開発事業

イ 旅行プログラム施策及び流通促進事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	伊豆半島ジオパークを中心とした教育旅行向けプログラムに特化した事業を実施し、観光消費額の増加や観光交流客数の増加を図る。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
探究学習 ワークショップ	伊豆半島ジオパークをテーマに中学・高校生向け教育旅行で使用する探求学習教材「伊豆×探求」を活用した教育プログラムを推進 ・探究学習ワークショップ 5月(13日:三島市(荒天中止)、15日:伊東市大室山 14名、16日:伊東市城ヶ崎 7名) ジオガイドを対象に探究学習について学び、探究課題を引き出す方法を身に付けるため現地でガイドを受けながら探究学習の視点を学んだ ・11月 教育旅行営業用価格の決定 ・1月 県内教育委員会へ伊豆半島教育旅行紹介用冊子の送付 ・1月 旅行会社へ教育旅行の営業実施 東京都(3社)、愛知県(5社) ・2月 ㈱阪急交通社法人団体営業本部西日本営業部への営業 修学旅行用探究学習プログラム2案の提案、担当者訪問

3 評価と改善

評 価	教育旅行の実績は3件(熱海高校、横浜市立新田中学校、大阪府立大正白稜高校)である。昨年度に引き続き、ジオガイドを中心に探究学習の研修を行い、伊豆半島ジオパークの上に成り立っている経済や社会・文化が探究学習の素材として価値があることの再認識する場を設けた。昨年度まで受入れ時の単価が未定であり、営業時に支障があったため、今回ジオガイド協会との調整の結果、正式決定した。教育旅行誘致に向けてのエージェントセールスについて、計8社に実施。県観光協会と連携。
改 善	2月に実施した阪急交通社からの企画依頼対応については、対象学校の入札競合の結果、他社決定となり不採用となってしまった。継続して、県観光協会との連携を強化し、営業活動を進める必要がある。

(2) 観光総合開発事業

ウ 伊豆半島満足度調査事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	伊豆半島の経済構造を人々の満足度の観点から多面的に把握し、新しい観光テーマの創出や流通促進のための基礎データを収集する。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
調査・分析	・ 4/12 市町フレンドシップ推進事業助成金申請 ・ 6/20 助成金交付決定 ・ 7/1～2/28 アンケート調査開始 ・ 伊豆半島満足度調査事業 8/19 観光アンケート分析業務委託契約締結 契約先：(株)JTB 総合研究所 - アンケート回答中間分析 (10/31 時点データ 828 件) ・ 3/8 アンケート分析結果受領 (最終データ：1,564 件) 前年度に実施した調査から、食事（海鮮）、施設入場（観光施設等）、土産（水産物：生鮮食品）において、来訪前後の予算額に目立ったギャップ（機会損失）が見られる結果であった。 本年度の実施にあたっては、ギャップの事由を収集する設問を設けた。併せて伊豆半島ジオパークの認知度調査項目を設定した

3 評価と改善

評 価	一人当たりの観光消費額は増加傾向ではあるが、事前の消費意向と消費実態に機会ロスが発生している状況。 今回の調査では食事（海鮮）における予算と支出の差について設問項目を増やしたが、食事・土産などで販売機会ロスが発生しており「高価だった」「見つからなかった」という理由が多かった。
改 善	令和7年度の調査では、さらになぜ「見つからなかった」のかを聞くためにインタビューの実施も併用した調査も実施したい。 また、世代間の情報収集の手段による機会ロスの発生も考えられるため、年代別に適した情報の出し方を工夫・検討する。

(2) 観光総合開発事業

エ 観光客平準化調査研究事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	位置情報データ等を活用した季節ごとの主要な観光施設における人流を調査し、観光客の集中を分散させ周遊性を高める調査研究の上、情報発信する。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
調査・研究	位置情報ビッグデータの取得については予算を大幅に超過したため、既に静岡県観光協会によって制作された「静岡県データ分析プラットフォーム」を利用した。これは、伊豆半島内主要施設の人流データをはじめ、宿泊者数、訪日外国人数も把握することが可能であるため、伊豆半島内各市町および観光協会、DMOを対象に研修会を実施し、上記システムの周知・活用促進へ計画変更した ・11/26 静岡県データ分析プラットフォーム研修会開催（オンライン）

3 評価と改善

評 価	15名（11団体）が出席。当該システムの利用経験がない職員が多く、システムの認知拡大や利用促進に寄与したと思われる。
改 善	団体によっては当該システムの存在自体知らない職員も見受けられており、一層の周知拡大に努める必要がある。

(2) 観光総合開発事業

オ 企業研修意向調査事業

(総務企画部)

1 事業の目的

事業の目的	モニター企業研修を実施し、地域と企業のマッチングを行い、地域の受け入れ態勢の現状を伝えるとともに、地域課題への企業のアプローチの可能性を探り、将来的な移住・定住人口の増加を目指す。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
調査・実施	当初事業名は「伊豆半島企業×マッチング事業」だったが、実際の事業内容や主旨を考え「令和6年度 企業研修意向調査事業」に事業名を変更した。 7月～8月 構成市町の受入先施設等の調査・企業動向の調査 8/13 ㈱machimori と委託契約締結 9月～10月 伊豆半島内の12の業者にヒアリング調査を行う 10/29 ㈱machimori と今後のスケジュールとワークショップの内容について協議 12/11 第1回ワークショップを熱海市で開催 テーマ【自社の自分たちのエリア課題を捉える】 1/28 第2回ワークショップを西伊豆町で開催 テーマ【他地域から学ぶ、磨きあう】 2/26 第3回ワークショップを伊豆市で開催 テーマ【エリアを変えるための事業を考える】 3/20 事業報告書を受領

3 評価と改善

評 価	事前にヒアリングを行い、各企業が必要としている課題をワークショップに取り入れた。これにより、ワークショップに11社（延べ32名）の参加となり、各地域の団体の協力関係を深めることができた。また、モニター企業研修の企画・考案の一助となった。
改 善	エリアによっては企業研修受け入れの認知度に温度差があるため、ワークショップやモニター企業研修を行うことにより、認知度を高めていく。さらに各団体のコーディネート能力を強化していく必要がある。

(3) 伊豆半島サイクルフレンドリー事業

ア サイクリングリゾート伊豆 PR 事業、イ 伊豆半島一周サイクリング開催事業
ウ E-bike の聖地化推進事業、エ サイクリングエリア交流事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	SNS プロモーション、特設サイトへの誘導促進などの広報活動を実施し、「サイクリングリゾート伊豆」のブランドPRをサイクリスト（自転車家）のみならず、観光客や地域のサイクリング初心者等へ訴求させる。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
ア サイクリングリゾート伊豆 PR 事業	・ 4/6～4/7 サイクルモード東京 ・ 9/21～9/22 神奈川サイクルスポーツデイズ ・ 3/15～3/16 名古屋サイクルスポーツデイズ
イ 伊豆半島一周サイクリング開催事業	JKA 補助金 3 年目 ・ 実施期間：4/27～2/2 - 参加者数：321 名（10/27 時点） ・ 7/6 伊豆いちスペシャルチャレンジデイ ・ 8/20 サイクルボール記者発表
ウ E-bike の聖地化推進事業	・ 10/27 E-bike を活用した婚活ツアー 会場：東伊豆町（片瀬白田駅～熱川バナナワニ園） 参加者：7 名（男性 3 名・女性 4 名）、うち 1 組がマッチング
エ サイクリングエリア交流事業	・ 5/11～5/12 エロイカ・ジャパン ・ 10/3～10/4 自転車利用環境向上会議 ・ 10/6 富士山一周サイクリング ・ 11/18～11/20 しまなみ海道サイクリングロード視察 ・ 1/11 狩野いちチャレンジデイ ・ 3/24～3/30 台北サイクル

3 評価と改善

評 価	期間型の伊豆いちの開催を軸に首都圏、中京圏のサイクリスト獲得に向け出展を行い、効果的な誘致ができた。E-bike ツアー実施により、自転車に乗らない層が参加できるイベントが開催できている。しまなみ海道と伊豆半島の相互宣伝に向けた調整を始めており、県内の各コースや、各イベントに協力することでサイクリングリゾート伊豆の認知度向上につながった。
改 善	E-BIKE ツアーはガイドツアーの関係から少人数開催となってしまうため、コストに見合う効果が得られにくい。

(3)伊豆半島サイクルフレンドリー事業

オ 風景街道活用事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	地域協働により魅力ある地域づくりを推進する取組みである風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」を活用し、観光振興と絡めたプロモーションを展開する。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
① 広報活動	国交省沼津河川国道事務所と連携し、風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」の認知度向上を図るための施策を実施する ① SNS での広報 (10 月～2 月 各月 1 回、計 5 回) ・10 月 テーマ：中通り (伊豆の国市、伊豆市、河津町) ・11 月 テーマ：西伊豆 (伊豆市、西伊豆町、下田市) ・12 月 テーマ：西通り (西伊豆町、南伊豆) ・1 月 テーマ：東通り (伊東市、下田市) ・2 月 テーマ：西伊豆 (熱海市、西伊豆町) ② イベントでの広報 ・11/16 全国路地サミット (下田市) ・11/23 いずはこねふれあいフェスタ (三島市) ・12/22 伊豆半島 住む人来る人 感謝祭 in 伊豆高原 (伊東市)
② 他団体等との交流	・10/22 日本風景街道中部ルート意見交換会 (愛知県豊田市) への参加

3 評価と改善

評 価	各地で開催されたイベントでは、本事業自体を認知している人は非常に少ない状況であったが、会場にてパンフレットの配布やポスターの展示、SNS 投稿などにより一定数の認知度の向上が図られた。
改 善	本年度は SNS による投稿を 5 件した、次年度は上期期間中の SNS 投稿強化も検討する。

(4) 地域ブランド化事業

ア 伊豆半島魅力コンテンツ強化事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	伊豆半島魅力コンテンツ強化事業は、リピーターの獲得機会を拡大するため、主に首都圏等における集客力の高い施設等において観光物産展を開催し、地域活性化を促進する。また、伊豆の自慢プリンとともに、ジオパークの恵を活かした食資源コンテンツ等の広域的な情報発信を行い、「伊豆の本物づくり」としてのブランド力を強化する。 さらに、観光 DX を推進する手法として、EC サイトや SNS を活用した情報発信を行う。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
① 観光物産展	観光物産展の開催 ・ 6/23 伊豆半島名産展（東京競馬場） ・ 12/22 伊豆半島 住む人・来る人 感謝祭 in 伊豆高原
② EC サイトの活用	楽天市場を利用した WEB 物産展の開催 ・ 1/31～2/28 伊豆半島WEB物産展 開催
③ 伊豆の自慢プリン	令和5年度に調査した域内プリン店舗最新情報を台湾向けに情報発信 ・ 7/16 ロケーションジャパン 8月号掲載 ・ 9月～11月台湾向け情報発信（Facebook、メルマガ）

3 評価と改善

評 価	① 伊豆住感 in 伊豆高原では過去2回のイベントを越える来場者が訪れた。 ② 参加店舗を調整したため、売上上位に海産物がラインナップされ、より伊豆らしい商品の売上が増加した。 ③ 各店舗平均 3,000 インプレッションを獲得。一部店舗においては 10,000 インプレッションを獲得した。
改 善	① 出店数の確保、住民満足度の効果測定方法の検討が必要。 ② 出店事業者からのフィードバックの取得方法、費用対効果を検討。 ③ 費用対効果の検証が必要。

2 国内観光誘客事業

(1) 国内観光誘客事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	国内（主要駅や大型商業施設）等での観光キャンペーンや静岡県観光協会及び交通事業者と連携したエージェントセールスなどを積極的に実施し、公共交通機関の利用拡大及び伊豆の魅力の情報発信、誘客促進を図る。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
① 国内での観光キャンペーンの開催、国内の観光展への出展等	・ 6 月 よこすか YY のりものフェスタ 2024 ・ 6 月 東京競馬場物産展観光 PR ・ 7 月 旅コト塾（観光情報説明会） ・ 9 月 ツーリズム EXPO ジャパン 2024 ・ 10 月～2 月 伊豆産直市 関東圏主要駅 9 ヶ所実施
② 県観光協会及び交通事業者等と連携したエージェントセールスの実施及びエージェント説明会への参加	・ 4 月 令和 6 年度下期 JR 東日本観光素材説明会 ・ 9 月 大阪 ふじのくにしずおか大商談会 ・ 10 月 東京 ふじのくにしずおか大商談会
③ 関西圏等に対するプロモーション	・ 11 月 関西圏等旅行会社向けエージェントセールス
④ 伊豆半島 13 市町を紹介する伊豆総合パンフレット、ドライブマップ等の作製	伊豆半島観光パンフレット「CHOITAS」増刷 20,000 部 伊豆半島ジオドライブマップ日本語版増刷 35,000 部

3 評価と改善

評 価	関東圏一般客層を対象に、夏に向けた観光 PR として 6 月から 7 月まで 3 回のイベントの実施または参加を行った。今年度の初の取り組みである「旅コト塾」では酷暑の中 41 名の来場者を迎えることが出来た。定期的に伊豆に訪れている方向けのイベントであり、費用対効果が高いと評価できる。今後はファン層を増やす通年の取り組みとしていく方針。 次回以降は、参加者より意見が多くあった地元民だけが知るような深い情報を追加する。
改 善	9 月と 10 月に参加した大商談会では、伊豆半島全域の観光情報の提供を旅行会社に向けて行った。参加後の反省点として、モデルコースの提案や、具体的な費用面などを盛り込んだ資料作りを今後進める。

2 国内観光誘客事業

(2) 「誰もが楽しめる観光地 伊豆」 魅力発信事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	「誰もが楽しめる観光地 伊豆」をコンセプトに、様々なハンディキャップを持つ方や家族連れの方等にもやさしい観光地として、受入態勢の調査等に取り組む。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
調査・情報発信	様々なハンディキャップのある方や家族連れの方等に対して、ユニバーサルデザイン等の配慮がなされた、旅行者にとってよりやさしい観光地としての受け入れ態勢の調査や情報発信を実施 ・ 4 月 市町フレンドシップ推進事業助成金申請 ・ 6 月 「ユニバーサルツーリズム推進シンポジウム in 静岡」出席 ・ 9 月 助成金交付決定 ・ 9 月 NPO 法人静岡ユニバーサルツーリズムセンターと契約締結 ・ 11 月～1 月 宿泊施設におけるユニバーサルツーリズム取り組み状況ヒアリング協力依頼、実地調査 ・ 2 月 44 施設への調査結果を冊子形式にまとめ、20 施設をピックアップし詳細な情報を掲載 ・ 3 月 事業実施報告書の作成、補助金交付申請、事業完了報告

3 評価と改善

評 価	ユニバーサルデザインに着目し、域内各宿泊施設の取り組み状況を調査した。このことで、障害のある方、高齢の方、乳幼児を連れた方など、情報のバリアフリーを含めハード面、ソフト面共に良い取り組みや、今後改善すべきことが判明した。
改 善	調査協力を行う上で、ユニバーサルツーリズムについての理解がないことを理由に協力を得られなかった場合があった。障害者差別解消法や、施設側の受け入れについて知識を広める機会の必要性を感じた。

2 国内観光誘客事業

(3) ペットに優しい伊豆の旅（ペットツーリズム）調査推進事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	ペットツーリズムによる観光振興を図るため、ペットと宿泊可能な施設やペットと共に楽しめる施設等を調査し、ペットに優しい伊豆の旅をPRするとともに、伊豆半島の観光情報を発信する。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
調査・情報発信	伊豆半島に来訪するペット同伴者へのアンケート調査を行い、ペットに優しい伊豆のさらなるPRの為に施策立案につなげる ・ 4/10 市町フレンドシップ推進事業助成金申請 ・ 9/1～1/31 ペットに優しい伊豆の旅調査推進事業アンケート ・ 9/29 芋フェス出店（道の駅ゲートウェイ函南イベント広場） ・ 10/19 下田ウィスキーフェスでのアンケート調査（道の駅「開国下田みなと」） ・ 11/9～11/10 伊豆高原わんわんマルシェ出店（奏の森リゾート） ・ 12/13～12/15 等々力ドッグフェスティバル出店（川崎市等々力緑地）

3 評価と改善

評 価	アンケート集計の結果、ペット旅行者の大半が日帰りもしくは1泊での旅行であった。伊豆半島に対しては豊富な自然とグルメに対して高評価を得られ、ペット飼育者のニーズを収集することができた。
改 善	アンケート回答者からは、ドッグラン施設の増加、ペット同伴のトイレの設置やペット旅行のための観光情報をまとめたマップやウェブサイト構築の要望が多かったため、次年度事業に反映していく必要がある。

3 インバウンド（外国人観光客等誘客）事業

（観光・地域振興部）

1 事業の目的

事業の目的	「伊豆」全体を包括的にPRし、海外における「伊豆」の認知度を向上させる。誘客に繋がる着地型旅行商品の開発や旅行会社等を通じた商品販売を促進する。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
① インバウンド向け情報発信事業	地域づくり推進事業助成金 5年目 ・ 8月 台湾視察研修事業 ・ 9月 韓国情報発信セールス・日韓交流おまつり ・ 10月 シンガポール情報発信セールス・Japan Rail Fair ・ 12月 静岡県インバウンド旅行商談会 ・ 12月～1月 国内旅行会社訪問 ・ 2月 JR連携台湾向け伊豆半島セミナー
② インバウンド旅行商品開発事業	地域づくり推進事業助成金 5年目 ・ 2月 JR連携シンガポール向け伊豆半島セミナー ・ 台湾プレミアムニツアーセールス ・ 通年 ファムトリップ【アメリカ、韓国、タイ、台湾、国内】
③ インバウンド旅行商品販売事業	地域づくり推進事業助成金 3年目 ・ 4月 台湾イベント参加・台遊館 in 渋谷 ・ 5月 OTA 訪問 ・ 5月 台湾ファムトリップ【One Style Tour】 ・ 6月 台湾 ITF に向けた調整及びセールス ・ 11月 台湾トップセールス ・ 11月 タイエージェントセールス ・ 3月 ベトナムエージェントセールス

3 評価と改善

評 価	・ 令和4年度に連携協定を提携した㈱KKDAY JAPANからの送客実績は、年内目標の11万人を超える141,544人の実績であった。 ・ 令和5年度に締結した「台湾観光協会」との包括連携協定に基づき、台湾インバウンド獲得に向けた各種事業を行えた。 ・ JR東日本との連携により、地域のPRだけでなく、交通手段も同時にPRし、販売する試みができる。
改 善	欧米豪など英語圏への取組みを強化していきたい。

4 伊豆半島観光情報発信強化事業

(1) 情報発信強化事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	伊豆観光における旅行前の情報収集、滞在中の観光情報及び案内への旅行者満足度が低い状況を踏まえ、閲覧者の利便性向上を目的に、総合観光情報サイト「伊豆半島観光情報サイト B-IZU (ビイズ)」における内容の充実を図り、13 市町の観光サイトに誘導するとともに、市町観光サイトと周遊ルート案内サービスアプリ「Japan Concierge」を連動させた案内サービスを実施することにより相乗効果を図る。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
① 美伊豆公式 HP「B-IZU」の充実	・アクセス数（月別） 4 月：31,812 件、5 月：35,080 件、6 月：35,147 件 7 月：44,097 件、8 月：47,986 件、9 月：39,306 件 10 月：40,980 件、11 月：41,437 件、12 月：42,353 件 1 月：52,476 件、2 月：69,055 件、3 月：76,177 件 ・特集記事の作成 イベント情報（毎月）、伊豆半島花暦（3 ヶ月に 1 回）、日の出スポット情報ほか ・HP アクセス数 555,906 件（前年比 180%）
② Japan concierge の継続運用	・更新及び継続運用 ページアクセス数 3,504 件
③ EXPLORE-IZU の運用及び改修	・英語版 HP「EXPLORE-IZU」の継続運用 ・内容改修 リンク・画像の差し替え等 145 件 ・ページアクセス数 85,121 件（前年比 157%）
④ 紙媒体	・SNS 紹介カードの作成及び配布 ・伊豆時間 vol. 18/19 ・日本経済新聞への広告掲出 ・Japan Times 季刊誌への伊豆半島「桜」情報掲出 ・女子大生の一人旅を応援するフリーペーパー「たびいじょ」への伊豆半島情報掲載 ・伊豆急行 8000 系車内にて伊豆半島と台湾の交流ポスター掲出

3 評価と改善

評 価	HP リニューアル後アクセス数が減少していたが、前年度比 180%と増加している。同様に英語版 HP も改修を実施したことで、アクセス数の向上に繋がった。
改 善	マンパワー不足により、HP のアナリティクスから得られた、利用者に求められている情報の掲出が満足に出来なかった。

4 伊豆半島観光情報発信強化事業

(2) SNS を活用した情報発信強化事業

(観光・地域振興部)

1 事業の目的

事業の目的	次代の主要客層となる F 1 層 (20 歳～34 歳の女性) に対して、Instagram や X (旧 Twitter) 等の SNS を活用した効果的な情報発信を引き続き実施する。併せて、観光関係者向けに SNS の特性に応じた活用方法等に関する研修会を実施する。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
① SNS プロモーション	【F1 層をターゲットにした SNS への投稿】 フォロワー数 Instagram : 16,252 (前年 : 10,577) X (旧 Twitter) : 10,942 (前年 11,031) ・ SNS 情報発信強化業務委託 投稿 Instagram : 15 本・X : 13 本 ・ 2/13 美伊豆会員向け SNS 活用セミナーの開催 ・ Instagram 広告配信 フォロワー増加数 3,450 人 ※広告以外の増加も含む アクセス数 : 10,909 回 エミー賞受賞監督が切り取る伊豆、リール動画の作成 動画 2 本、静止画投稿 2 本 第 7 回日本国際観光映像祭 国内映像 縦型動画部門にて最優秀賞を受賞 SNS 投稿分析 ・ 伊豆半島住む人・来る人感謝祭 Meta 広告掲出 リーチ 319,903 件、インプレッション 804,212 件 ・ 職員による取材及び発信
② SNS キャンペーン	・ JR 東日本横浜支社と共同で重販キャンペーンに合わせ、SNS フォロー＆コメントキャンペーンを実施 (キャンペーン期間 10/23～12/22) コメント 925 件

3 評価と改善

評 価	利用者目線の投稿を意識したことでフォロワー数が増加した。委託期間内外に関わらず、職員が季節に併せて最新の情報を発信することで、フォロワーの維持に努めた。また、取材した情報をセールス先で紹介したことで、実際の来訪に繋がった。 例) ファムトリップにてアクティビティの紹介 (SUP) など
改 善	委託期間外及び他業務との重複等により、投稿期間が空いてしまうなど、最新情報を届けられない期間が生じた。継続的な情報発信が求められる。研修を通して、伊豆半島全体で発信力を強化する必要がある。

5 ジオパーク基本計画・行動計画推進事業

(1) ジオガイド養成事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	基本計画・行動計画に謳われた下記の大目標の実現に資する人材を地域住民の中から養成する。 (1) 地域の住民自身がジオパークの理念を正確に理解し、来訪者や次世代に伝えられるようになること (2) 住民、殊に若者に地域への愛着を醸成すること また、潜在的にジオガイドなどとして事業に参画しうる者がジオパークに関与する契機としてジオパーク検定を実施する。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
① 認定ジオパークガイド養成	・ 9月から2月まで養成講座を実施 ・ 20人の受講生（内3名途中辞退）中、7名をジオパークガイドに認定
② ジオパークガイド資格更新講習	・ 11/24 開催・第4、7期（48名）が養成講座のうち、新規開講の民俗学関連の講座を受講。更新43名
③ ジオパークガイドスキルアップ講座	・ 1/18 伊豆市土肥にて実施。能登半島地震を事例として伊豆半島の津波防災について研修。39名参加 ・ 1/29 東伊豆町熱川および細野高原にて研究員より解説を行った。18名参加
④ ジオパーク検定	・ 1・2級 受検者計34名 1級合格者3名、2級合格者13名 ・ 3級 受検者数697名（昨年度583名）、内合格者数682名

3 評価と改善

評 価	・ ジオパークガイドについては、既に認定を受けている者で市場の需要が飽和している状況にある。このため、新規の認定数は抑制し、質を向上する方針としている。 ・ ジオパーク検定の受検者数は、横ばいで推移している。
改 善	・ 実践的なスキルを養うような双方向性の演習や、フィールドでの模擬ガイドの機会の導入などジオパークガイド養成講座のカリキュラム刷新を図る時期に来ている。このため有識者などを招いたワーキンググループの新設を検討中である。

5 ジオパーク基本計画・行動計画推進事業

(2) ジオカフェ等開催事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	本事業は、基本計画・行動計画に謳われた以下の大目標に寄与する。 (1) 住民に地域への愛着を醸成すること (2) ジオパークの認知度やブランド力を高め、域内でジオパークに関わる意思のある者を増やすこと 上記の目標を実現する手段として、主として地域住民を対象に、市民参画型の催事を実施し、伊豆半島ジオパークの魅力を地域住民や参加者が再発見し親近感を涵養する。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
ジオカフェの開催	令和6年度中に4回のジオカフェを伊豆半島各地で実施した。 ・ 6/15 「ツナグ陸～海 漁師の森づくり」 伊東市 海と山の生態系の繋がりおよびSDGsについて ・ 11/16～11/17 「伊豆峯辺路ヲカタル」 熱海市 地質と歴史・民俗の相互作用および巡礼路再興を通じた周遊促進について ・ 12/22 「海鳥と海底地形のお話」 下田市 地質と生態の相互作用および海鳥の実践的な保全について ・ 1/26 「おんせんはたいへん」 伊豆市 日本の温泉文化ならびに温泉を介したインバウンドや文化交流について

3 評価と改善

評 価	ユネスコからの指摘事項である「地質・生態・文化の相互作用」に係る多様な話題を、親しみやすく提供する旗艦事業である。また、少額の予算で実施可能で、事業のレバレッジが非常に高い。
改 善	ジオパークガイドを中心に、常連で参加定員が埋まる傾向にある。ジオパークに新たに関わる者を増やすという目的に鑑み、告知や定員設定については、再考を要する。

5 ジオパーク基本計画・行動計画推進事業

(3) 学校教育との連携事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	ユネスコは、ジオパークに持続可能な社会の実現への貢献を強く求めている。本事業の大目標は、持続可能な開発の担い手を育てることである。また、基本計画・行動計画の文脈においては、(1) 地域の住民自身がジオパークの理念を正確に理解し、来訪者や次世代に伝えられるようになること(2) 住民、殊に若者に地域への愛着を醸成すること、の2点への寄与を目的とする。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
① ジオパーク小冊子配布	域内小学校5年生への、伊豆半島の成り立ちを紹介する「ジオマンガ」の配布を完了した
② 小・中・高校特別支援学校連携による普及活動	ジオパーク学習実績 小学校11校、中学校7校、高校4校、特別支援学校1校、教員研修1件
③ 新規導入無償講師派遣事業	・実績1件：伊豆の国特別支援学校下田分校中学部
④ 伊豆箱根鉄道ジオトレイン事業	知徳高校との連携により12月中旬より運行開始
⑤ ESD推進活動拠点活動	・書籍「ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり」刊行 本書は、ジオパークにおけるESDを体系的に論じた日本語での初の書籍。本書籍をテキストとする日本ジオパークネットワークの全国研修会開催により、ジオパークにおけるESDに関し、国内で卓越した地位を確立した ・2月 先端的な気候変動教育の導入に成功した

3 評価と改善

評 価	学校でのジオパーク教育は確立されたプログラムであり、本年も順調に執行されている。ESDについては過去2年あまりの活動を通じ、国内先端地としての評価を獲得しつつある。
改 善	・学校へのジオパーク教育の浸透度に地理的な偏りが大きく是正が求められる。 ・ジオパークの過去の蓄積を活かし、かつ、域内の社会教育施設と連携を深めた教育用デジタルコンテンツの制作を検討する。

5 ジオパーク基本計画・行動計画推進事業

(4) ジオツーリズム・エコツーリズム促進事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	持続可能な開発は、保全、教育と並ぶジオパーク活動の柱である。ツーリズムは、その重要な手段として位置付けられる。また、伊豆半島の観光業の持続性向上は、旧ジオパーク推進協議会と旧美しい伊豆創造センターの合意に基づき、現法人の基本的なミッションとして位置付けられている。 以上の前提を踏まえ、自然環境への負荷を低減し、かつ来訪者にとって環境や地域文化に関する学びのあるツーリズムの実現に向けた体制を整備する。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
① エコツーリズム構想策定	6月 環境省より関係省庁に構想案に対する意見依頼地方事務所間の協議が完了、現在、4省庁（文科省、国交省、農水省、環境省）の省庁間協議中である。
② ジオツーリズム促進	昨年度に引き続き、ジオガイドの高齢化による衰退への予防的な措置として、次世代のリーダーとなりうる有力な若手ジオガイドに対しキャパシティービルディングを目的として、JGN 全国大会や JGN 国内現地確認などへの参加機会を提供した。

3 評価と改善

評 価	・エコツーリズム事業は、全体構想が未承認で緒に就いた段階にすぎないが、伊豆半島のツーリズムの持続可能性の向上という組織発足の初期理想に鑑みれば、一層の注力が不可欠である。 ・ジオツーリズム事業での次世代リーダー育成は、実験的な試みであったが、少数ながら卓越した人材の獲得に成功した。しかし、選考、評価、研修内容などは依然として試行錯誤の段階にある。
改 善	・エコツーリズムは、ジオパークにおける経済活動の核ではあるが、既存のマーケットとの親和性が低いことは否めない。相性の良い他事業と組み合わせ、需要開拓に取り組む。 ・次世代リーダーの育成は今後も引き続き重要であるところ、対象となる人員の選抜方法や研修のコンテンツを精査し、中長期的に安定して運用しうるよう制度の再構築を行う。

6 ジオパーク調査研究事業

(1) 研究関連活動事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	ユネスコ世界ジオパークとしての認定に当たっては、常勤の研究者の雇用が不可欠な要件となっている。また、当該地域を対象とする学術研究の蓄積や、地域住民に教育や催事を通じた還元が、再認定の重要な評価項目ともなっている。 以上に鑑み、本事業では専門分野の異なる常勤・専任の研究員を雇用し、学術研究の蓄積と地域への還元を行う。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
研究関連活動事業	・ 4 月 3名の研究員が、包括連携協定を結ぶ静岡大学の客員准教授に就任。静岡大学教員との勉強会が新設された ・ 4 月 國學院大學と包括連携協定書を締結。 ・ 8 月末 書籍「ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり」刊行。研究員1名が編著者、2名が著者となった ・ 12 月 日本ジオパークネットワークの全国研修会の指定テキストとして上記書籍が用いられた ・ 3 月 (一社)一般社団法人との連携により国際地質科学連合に伊豆石のヘリテージストーンリストへの登録を申請 ・ これらに加え、研究員が各種の講演会、静岡大学、日本大学、慶應義塾大学などでのゲスト講義などに随時登壇している

3 評価と改善

評 価	・ 本年度は、静岡大学との連携の深化、國學院大學との本格的な連携の開始など本事業にとって画期的な前進の見られた一年であった。 ・ 8月に出版した書籍は、狭義の学術書ではないが国内で出版された書籍としては、ジオパークと地域づくり、ESDの関係を論じた体系的、先駆的な書籍として高い評価を受けた。
改 善	・ 本法人は、行政出向者が中心であるためエフォート率や専門職裁量労働制といった学術機関特有の制度の理解が不十分であった面が否めない。この点を改め、研究員自身の出版が可能な環境を漸次整備することが必要である。

6 ジオパーク調査研究事業

(2) 研究活動支援事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	地域を対象とした学術研究が活発に行われていることは、ユネスコ世界ジオパークの評価項目の一つとなっている。これを受け、本事業は伊豆半島を対象とし、査読付きの国際学術誌に成果の刊行が期待できる研究に小規模な助成金を支給し、学術情報の蓄積を図ることを目的とする。また、本事業は株式会社東海自動車からの寄付金を原資に運営されており、学術振興を通じた地域の有力企業との連携事業としても大きな意義を有する。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
研究活動 支援事業	・ 5 月 募集要項公表 募集開始 1 件上限 30 万円 ・ 7 月 研究助成申込締め切り 10 件の応募 3 件を採択 生物学 2 件、社会学・民俗学 1 件 ・ 3 月 研究成果品受領 静岡大学と共催の探究サミットにあわせ、研究発表会開催

3 評価と改善

評 価	・ 助成規模は一件 30 万円と少額ではあるが、過去に本助成をもとに 9 報の学術論文（うち 5 報が国際論文）が刊行された他、国際的なインパクトを持つプロジェクトに発展した例も見られ目的を十分に達成してきた。 ・ 本年度は、これまで採択例の乏しい人文系分野において、地域社会の関心の高い津波防災に関する卓越した研究を採択できたことは特筆に値する。 ・ 研究発表会を、静岡大学と共催する高校生の探究サミットと同時開催することができたことは、研究成果の地域還元の面でも有意義であった。
改 善	・ 助成の競争率が上昇する傾向にあり、地域で活躍する研究者には採択のハードルが上がっている。地域内の研究者からは、郷土研究の蓄積や、若手研究者の育成につながる支援を望む声があり、制度のあり方を再検討する。

6 ジオパーク調査研究事業

(3) 研究・学術ワーキング開催事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	本事業は専門家の高度な知見を吸収し、かつ実装する調査研究の側面と、ジオパークの事業や計画に市民の声を反映する草の根の市民参画の側面を併せもつ。本事業では、高度な知見を持つ有識者と公募により選任された一般市民が令和8年度から令和12年度のジオパークの基本計画・行動計画の立案に向けた審議を行える体制を整備する。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
ワーキンググループの設置および開催	5～6月 委員候補となる有識者に就任を打診。併せて市民枠の一般公募実施 7月 委員の選任。併せて法人内の関連諸規定の整備 12月 関連諸規定の理事会の承認を受ける 1月 理事会の承認を受け、「保全」「教育」及び「持続可能な開発」の3つのワーキンググループを発足し、初回の会合を実施した

3 評価と改善

評 価	・本事業は、調査研究の側面のみならず、2021年の再認定時のユネスコからの指摘事項の筆頭である、意思決定への市民参画の機会の確保への対応のために不可欠な事業であり、次年度も確実な執行が不可欠である。 ・8月に実施された日本ジオパークネットワークの現地確認においても市民参画の先駆的な制度として高い評価を得た。 ・制度設計は比較的早期に完了したが、諸規定の整備に想定以上の期間を要した。このため、審議の回数は当初の予定を下回り各1回に留まった。
改 善	・基本的な制度設計ならびに規定の整備を完結したところ、来年度の着実に計画的な審議が望まれる。 ・現在の制度では、異なるテーマのワーキンググループの構成員が意見を交換する場に乏しいことへの疑問が寄せられつつある。審議の縦割り化を防ぐためにオブザーバー制の導入など対応を検討する必要がある。

6 ジオパーク調査研究事業

(4) GGN・APGN・JGN 活動事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	ユネスコ世界ジオパークネットワーク並びに日本ジオパークネットワークは、加盟するジオパーク間の相互訪問や大会への参加を加盟地域の責務としている。 また、ジオパークの理念や優良事例は、ネットワーク活動を通じ、交流を通じて学ぶべき事柄と位置付けられている。以上を踏まえ、会員としての義務の履行、また実践的な運用ノウハウを学ぶ手段として各種の会合などへの参加を担保することを本事業の目的とする。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
GGN 関連事業	・ 11 月 隠岐ジオパークでのキルギス受入研修参加 ・ 6 月～2 月 GGN 生誕 20 周年コンテストに参加 ・ 12 月 伊豆半島でのキルギス受入研修の実施
APGN 関連事業	・ 9 月 ベトナムでのアジア太平洋ジオパークネットワーク会議に職員 1 名が参加 ・ 10 月 連携協定の更新に向け、インドネシア西ジャワ州の代表団が来訪 ・ 3 月 インドネシア・チレトゥジオパークとの連携協定を更新
JGN 関連事業	・ 4 月～7 月 理事として菊地市長が理事会に 3 回出席 ・ 8 月～9 月 JGN 全国大会（於下北半島）に職員 7 名ガイド 5 名が参加 ・ 12 月 沼津市に於いて全国研修会を主催。全国各地のジオパークより 42 名が参加 ・ その他、運営会議、ブロック大会などに毎回職員を派遣

3 評価と改善

評 価	・主たる会合の全てに代表団を派遣し、交流の責務を十分に履行している。また、全国研修会の開催や大型の海外視察受け入れを通じ、国内屈指のジオパークとしての地位を確立しつつある。
改 善	・大規模な会合への派遣人数を再考し、事業の企画・改善に資する明確な目的を有する国内外のジオパーク視察により大きなリソースを割く必要があるだろう。

7 ジオパーク地域連携事業

(1) こども絵画コンクール事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	本事業は、(1) 地域の若年層の、伊豆半島に対する郷土愛を養うこと、(2) 域内の児童生徒がジオパークの存在を認知し、活動に参画する最初の機会を提供すること、の2つを目的とする。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
子供絵画コンクール事業	・ 7月～9月 域内の小中学生から作品を募集。応募 126 点 ・ 10 月に協賛企業である三島信用金庫元気創造部長、美術専門家のベルナール・ビュフェ美術館学芸員、ジオパーク推進部長が審査に当たり、39 点の作品が入賞作品として選定。ホームページで受賞者名一覧公開中 ・ 11 月～2 月 伊豆半島各地の 8 会場（伊東市、清水町、西伊豆町、長泉町、伊豆市、三島市、函南町、下田市）を移動する巡回展を開催

3 評価と改善

評 価	・ 本事業は、恒例の行事として学校関係者にも認知されており、児童生徒がジオパークに関わる最初の契機として有効であると認識している。 ・ 三島信用金庫やサントムーン柿田川など域内の有力企業との連携事業としても高い意義を有する。 ・ これまで応募点数は 70～200 点と変動が大きい、その原因は明らかではない。今年の実応募点数は例年をやや下回る。
改 善	・ 児童生徒の絶対数が加速度的に減少しているため、応募点数が今後大きく伸長することは考えにくい。しかし、広報を工夫し、安定して 150 点程度の応募を得られることを目指したい。 ・ 作品の優劣を競うコンクールという形式が、郷土愛の醸成や児童生徒が初めてジオパークの活動に参画する契機という目的になじむものであるかは再検討の余地がある。

7 ジオパーク地域連携事業

(2) 地域活性化事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	持続可能な開発は、ジオパークが担うべき基本的な機能の一つである。本事業では、地域の企業と連携しつつ、伊豆半島の地域経済に裨益しうる地域資源の掘り起こしと可視化を進める。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
① パートナ ーシップ 提携者との 共同事業開 催	・県内でのクッキングスタジオを運営する静岡ガスとの連携協定に基づき、伊豆の食と環境に関する一連の催事（ジオぱく）を開催した。令和5年度は「海」、令和6年度は「川」がテーマであった。 6月「養殖の現場を見に行こう」（沼津市） 7月「海の日スペシャル 干物づくり」（静岡市） 11月「海と川をつなぐ生きもの まぼろしのカニを探しにいこう」（河津町） 3月「柿田川共和国ガイドツアー おやつ付き」（清水町）
② ロゲイニ ング大会開 催事業	3/2 開催地は松崎町と南伊豆町の一部 参加者は61チーム 137名

3 評価と改善

評 価	・「ジオぱく」は既存の事業で最も明確に生物・生態に主眼をおいている。生態系への着目はユネスコからの指摘事項の1つであることに鑑み重要である。また、地域資源の掘り起こしと可視化に向けたパートナーシップを象徴する旗艦事業である。 ・ロゲイニング大会は、半島各地に来訪者を誘導し、通常観光客が看過している地域資源に目を向けるための契機となることが期待されている。しかし参加者数は近年伸び悩む傾向にある。
改 善	・ロゲイニング大会は人的、金銭的に大きな投入を要するところ、地域資源の掘り起こしに着実に寄与しているかを再度検証する。この際、代替事業への転換の可能性を排除しない。 ・持続可能性への取り組みを象徴する地域商品の振興に資する事業を新設する。

8 ユネスコ世界ジオパーク改善勧告対応事業

(1) 再認定対応事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	ユネスコ再審査における勧告については適切な対応を行うとともに、評価を受けた取組についてはさらにその活動を励行して、地域主導の継続した取り組みとして定着するよう努める。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
① 市民参画、地域主導事業の促進	・ 5月、2月 ビジターセンター連絡会を開催 ・ 11月、3月 市民参画の一環として、長泉町と伊豆市で対話集会を開催 ・ 1月 若者へのエンパワメントを目的に、県立沼津商業高校の高校生が企画した東伊豆町のジオパークツアーを支援 ・ 3月 域内の若者を対象に、持続可能な地域づくりの担い手育成のための「探究サミット」を静岡大学と共催
② 可視性の向上	・ 伊豆市・熱海市・東伊豆町・清水町との協議を経て、解説看板の新規設置、更新とテーマトレイルの立ち上げを実施 ・ 11月 トレイル整備の機運醸成イベントを熱海で開催
③ 気候変動への対応	・ 1月 気候変動、ジオヒストリー、防災を複合的に結びつけた気候変動教育のパイロット事業を長泉町で実施
④ 世界遺産との連携強化	・ 7月 韮山反射炉イベントに参加 ・ 10～11月 ガイド間の知見共有のため、伊豆の国市文化財課工藤氏がガイド養成講座に出講、仲田ジオガイド協会会長が明治日本の産業革命遺産の全国会議で講演
⑤ 世界ジオパーク集中研修参加	・ 6月 職員1名がギリシャでの世界ジオパークネットワーク集中研修に参加

3 評価と改善

評 価	・ 日本ジオパーク委員会が実施した世界再認定現地調査1年前現地確認において、いずれの取組も高い評価を受けており、再認定対応は順調に推移している。 ・ 可視性の向上については、設置地域との調整や構成自治体の予算確保などに時間を要し、想定より進捗がやや遅れている。
改 善	・ 上記に挙げている事業は、いずれも息の長い取組が求められる。予算区分上は再認定対応であるが、現地調査団の来訪後も継続が求められる。

8 ユネスコ世界ジオパーク改善勧告対応事業

(2) 国際協力・交流事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	国内外のジオパークやユネスコ理念を共有する世界遺産やエコパークの交流を促進し、世界ジオパーク認定後も各国からのジオパークの視察を受け入れるなど、ジオパーク普及や能力支援を重ね、当ジオパーク活動のプレゼンス強化に努めていく。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
① 西ジャワ州並びにチレトゥープラブハンラトゥ・ジオパークとの交流	9 月 協定書の更新に向け、ベトナムでのアジア大会の際、チレトゥの代表团と接触 10 月 インドネシア・西ジャワ州官房長が来県 チレトゥープラブハンラトゥ・ジオパークとの連携への支援に言及。西ジャワ州内ジオパークとの新規交流の打診も受ける 11 月 令和6年度第1回のジオパーク委員会でチレトゥープラブハンラトゥ・ジオパークとの「更新の方針と協定案」を提示。構成自治体の意見を照会 3 月 連携協定の更新
② キルギス共和国に於けるジオパーク設置に向けた研修	12 月 キルギス共和国内におけるジオパーク設置に向け、代表团が来訪。JICA（国際協力機構）主催事業

3 評価と改善

評 価	・チレトゥープラブハンラトゥ・ジオパークとの連携協定更新は大きな成果である。今後、協定の形骸化を防ぐため交流の活発化が求められる。 ・グローバルサウスにおけるジオパーク新設への協力は、世界ジオパークネットワークにおいて極めて高い評価が与えられるため、キルギスからの研修受け入れの意義は大きい。
改 善	・連携協定の下、相互の活発な往来が望まれるところ、チレトゥープラブハンラトゥ・ジオパークへの往訪の早期実施が望まれる。 ・実効性のある交流事業が行える姉妹ジオパークを、最低限あと1つ獲得したい。このため職員の派遣や国際会議での接触を活発化する必要がある。

8 ユネスコ世界ジオパーク改善勧告対応事業

(3) 多言語化・デジタル化情報発信事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	ジオパークの諸事業や当法人の運営に関する文書を、英文で体系的に蓄積し、世界再認定の審査を円滑するため、ウェブ上での公開を通じて法人のアカウンタビリティを向上させる。 文化資源の静画・動画や、地質サイトの情報などをデジタルマップ上で一元的に示し、視認性を向上させる。
-------	---

2 事業実施状況

項 目	概 要
① 多言語資料の集積	5月～3月 世界再認定の資料となる文書の翻訳 2月～3月 本年度の理事会資料の抜粋を翻訳
② デジタルマップの構築	4月 統合型デジタルマップの初期版の公開を開始 以降、テーマトレイルのコース、無形文化遺産デジタルアーカイブのコンテンツなどをデジタルマップ上で漸次表示可能となる 2月 賀茂地域局「若旅プロジェクト」と連動し、大学生が作成した河津町の音声ガイドの音声デジタルマップ上からアクセス可能となる

3 評価と改善

評 価	・多言語化事業により、ユネスコの世界再認定審査に用いる資料の集積が順調に進んだ。また、本事業予算で導入した高精度翻訳 AI も、世界再認定準備の効率を大きく向上させ、経費の削減にも貢献した。 ・デジタルマップはひとまず公開されてはいるが、技術的なバグが少なからずみられ、期待した機能を発揮できていない。
改 善	・デジタルマップについては、技術的な助言を受けられる体制を整え、技術的な問題への対応に当たりつつある。また、契約事業者の見直しを検討中である。 ・AI を活用したホームページコンテンツのリアルタイム翻訳を可能とし、より効果的で即効性のある多言語発信を目指す。

9 ジオリア管理運営事業

ジオリア管理運営事業

(ジオパーク推進部)

1 事業の目的

事業の目的	ジオリアの常設展や企画展、各種イベントの開催などを通じ、伊豆半島ジオパークの普及啓発を行う。 伊豆半島ジオパークへの情報発信拠点としての機能を強化し、域内への回遊を促進する。
-------	--

2 事業実施状況

項 目	概 要
①ジオリアの管理運営事業	管理運営は伊豆半島ジオガイド協会に委託。3月末日時点で入館者数16,598名、前年度比128%
②常設展、企画展の開催	今年度は7回の企画展を実施した。 ・4/25～6/4「長岡中学校ジオ学習成果ポスター展」 ・6/6～6/25「東部特別支援学校生と作品展」 ・6/27～7/16「大仁中学校ジオ学習成果ポスター展」 ・7/18～9/24「三嶋大社秘蔵ガラス乾板写真展」 ・10/3～12/10「可哀いシートイの世界展」 ・12/12～12/29「こども絵画コンクール巡回展」 ・3/27～ 「平和のためにできること」
③ イベント・ワークショップの開催	今年度は静岡大学などの協力を得て、5回のワークショップを実施した
④ ジオ関連商品の販売	「ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり」、「伊豆半島ジオパークトレッキングガイド2」「しずおか地学図鑑2」販売開始

3 評価と改善

評 価	企画展やワークショップの開催は活発化しつつあり、拠点施設としての基本的な機能は十分に果たしている。 しかしながら、入場者数は横ばいの状況にある。また、施設の老朽化や展示手法の陳腐化が緩やかに進行しつつある。
改 善	展示の刷新に向け、他施設視察や、新技術の導入を検討すべき時期にある。また、設置当時に比べ、ジオパークにおける生態や文化の役割が大きくなっているため対応する必要がある。

Ⅱ 庶務の概要

1. 会員に関する事項（令和7年3月31日現在）

(1) 会員の異動数

区分	会 員 数		増減
	令和6年3月31日現在	令和7年3月31日現在	
正 会 員	108	111	3
賛 助 会 員	145	147	2
協 力 会 員	3	3	0
合 計	256	261	5

2. 役員等に関する事項（令和7年3月31日現在）

(1) 理事・監事

役 職	氏 名	分 属
会長(代表理事)	菊 地 豊	伊豆市長
副会長(理事)	岩 井 茂 樹	東伊豆町長
副会長(理事)	土 方 健 司	伊豆急ホールディングス株式会社取締役社長執行役員
理事	頼 重 秀 一	沼津市長
理事	齊 藤 栄	熱海市長
理事	小 野 達 也	伊東市長
理事	松 木 正 一 郎	下田市長
理事	豊 岡 武 士	三島市長
理事	山 下 正 行	伊豆の国市長
理事	岸 重 宏	河津町長
理事	岡 部 克 仁	南伊豆町長
理事	深 澤 準 弥	松崎町長
理事	星 野 淨 晋	西伊豆町長
理事	仁 科 喜 世 志	函南町長
理事	三 宅 裕 司	東海自動車株式会社代表取締役社長
理事	伍 堂 文 康	伊豆箱根鉄道株式会社代表取締役社長執行役員
理事	紅 野 正 裕	沼津商工会議所会頭
理事	山 田 健 次	伊豆市商工会会長
理事	加 藤 昌 利	東伊豆町観光協会会長
理事	加 藤 賢 二	静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合理事長
理事	田 宮 縁	静岡大学教授
理事	仲 田 慶 枝	伊豆半島ジオガイド協会会長
理事	植 松 和 男	一般社団法人美しい伊豆創造センター専務理事
理事	林 田 充	一般社団法人美しい伊豆創造センター常務理事
監事	平 井 敏 雄	三島信用金庫特別顧問
監事	田 中 豊	下田商工会議所会頭

附 属 明 細 書

特に記載すべき重要な事項はありません。